

44 稚児の墓標

伝承地：宇都宮市大通り5-3-14 (清巖寺境内)

参考書籍：1



(清巖寺境内の稚児の墓標)

宇都宮を代表する下町の名刹清巖寺の境内にある枸骨の樹の老木は、元来「稚児の墓標」として建てたものが根付き、成長したものです。

言い伝えによると、二荒山神社の弥生祭で花の会の神事が終わり、恒例により四人の稚児が花の付いた桃の小枝を持って舞っていました。突然、その中の1人が空中に舞い上がり、見物人が驚いて見上げる中、その姿はたちまち見えなくなりました。

数日後、この稚児は宇都宮の北方、白沢の街道坂で死体となって発見されました。人々はこのいたいけな稚児の死を哀み、清巖寺に埋葬して可憐な花の咲く枸骨の樹で作った墓標を建てました。この墓標は根付き、現在でも夏になると稚児をおもわせる可憐な花を付け、見る人にこの伝説の稚児を思い起こさせます。



45 鶴舞塚

伝承地：東谷町406

話者：31 参考書籍：29



(鶴舞塚)

羽の鶴に当たったということである。

これ以後、だれいうとなく、この地を当矢(東谷)、この塚を鶴舞塚と呼ぶようになったと伝えられている。

宇都宮市内に現存する古墳群の中で平地に所在する最大規模の東谷古墳群のうちの1基である。

東谷古墳群の中心に位置する笹塚(前方後円墳・県指定)の南に隣接した円墳鶴舞塚には次のような伝承がある。

日本武尊が東征のおり賊徒を追って鶴舞塚の横を通った時、塚の上に数羽の鶴が舞い降りていた。武尊は、塚の上で舞い遊んでいる鶴に矢を放った。

矢は狙い違わず1

